


やまびこの郷
平成27年9月
第38号

不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

やまびこ



兵庫県立 但馬やまびこの郷
<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>
 EMail Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

「わが子の不満」にどう応える？

今までに、ご家庭の中でお子さんが次のような行動をとられたことはありませんか？
 目に見える行動に一喜一憂せず、その行動の背景にある気持ちに寄り添うよう心がけましょう。
 お子さんを理解するための重要なヒントが隠されているかもしれません。

① 約束を守れない

例えば…

「明日は行くと言ったのに起きてこない」
 「2学期から頑張ると言ったのに約束を守らない」

➡ 不登校状態の子どもは、頭で考えた通りに身体が動かなくなったり、行動できないことが少なくありません。「約束を破った」でなく「約束を守りたくとも守れなかった」と考えるようにしましょう。約束にあまり重みを持たせないようにし、今できていることから認め、応援していきましょう。

② 怠惰に過ごす

例えば…

「朝起きず、昼過ぎまで寝ている」
 「ゲーム・パソコンばかりしている」

➡ 不登校の子どもにとって他の子が活動している日中はつらい時間でもあります。学校を休んでも、「夜更かしはしないようにしようね」「食事は家族で一緒にとろうね」などの声掛けを行い、基本的生活習慣はできるだけ崩さないようアドバイスしましょう。

③ 不満ばかり言う

例えば…

「『塾や習い事を無理強いした』『兄弟なのに差別した』などと昔のことで持ち出して不満を言う」
 「自分のことは棚に上げて親の不満を言う」

➡ 今まで言えなかった不満がやっと言語化できたとも考えられ、時間をとってしっかり聴いてあげることが必要です。「親として、その時々『よかれ』と考えてやってきた。もしそれがつらいことだったなら謝るけど気持ちだけは分かって欲しい」と率直に伝えます。不満を吐き出すことは心の掃除や整理になると捉え、気まづくなりそうな場面でも「おはよう」「おやすみ」の優しい声掛けを続け、子どもが気を許せる場所を作ってあげましょう。

※参考『不登校 予防と支援Q&A70』（菅野 純 著・明治図書）

まこさんからのメッセージ

おしゃべりお母さん・ だんまりお父さん



兵庫県立但馬やまびこの郷所長 佐藤 眞子

家庭の中で、父親と母親はどちらが子どもとよく話をしているのでしょうか。ふだん私が接している小学生や中学生に尋ねますと、「もちろんお母さんと話すことが多い」と答えます。「でも、お母さんは口うるさい」とも言います。「お父さんとは？」という問いには、「あんまり・・・」という答えが返ってきます。調査をして統計をとらないと正確なことはわかりませんが、わが国では「おしゃべりお母さんとだんまりお父さん」の組み合わせが多いのでしょうか。父親があまり子どもと会話していないとしたら、父親は仕事が忙しく、帰宅も遅く、話をする時間がなかなかもてないという家庭が多いためかもしれません。

「話し上手」よりも「聴き上手」なお母さんに

冒頭に「おしゃべりお母さん」などと書きましたが、おしゃべり好きなお母さんばかりではないとしても、子どもと話す機会が多いのはお母さんの方でしょう。

「私は一所懸命子どもに話しかけています。このままでは将来困るとか、塾で勉強した方がいいとか、せめて毎日8時には起きなさいとか・・・。私以外に子どもに注意する人間がいないのですから、私が言うしかないのです」とおっしゃるお母さんのお気持ちはよくわかります。でも、母親が焦って口数を増やせば増やすほど、子どもも父親も「だんまり」になるということはないでしょうか。ここは少し気持ちを切りかえて、「話し上手」よりも「聴き上手」なお母さんになってみられてはいかがでしょうか。

「うちの母親は勤めていて、毎日忙しく、小さいときから私の話をちっとも聞いてくれなかった」と相談の場で回想していた女子中学生がいました。「私が話していても、別の話を始めるので、聞いているとは思えなかった」と。子どもは、「何となく聞いている」のではなく、「心をこめて聴いてほしい」ようです。幼児期の子どもはよく親に「見て！見て！」と言いますね。少し大きくなると、「聞いて！聞いて！」になるのですが、小学生になる頃からあまり親に話を聞いてもらえなくなる子どもが増えていくように思います。そして、だんだん「どうせ聞いてくれないだろう」になっていきます。「母親はすぐにああしろ、こうしろと言う」なんていう子もいます。子どもに伝えておきたいこと、教えておきたいことがたくさんあることはわかりますが、話すよりも、諭すよりも、まず子どもの言葉に耳を傾けて、一所懸命「聴く」、「聴き上手」になっていただければと思います。



お父さんの出番ですよ！

子どもが不登校になって、母親だけで相談に来られた場合、私は「お父さんは不登校のことをどうおっしゃってられますか」と尋ねることにしています。「最初は学校に行けと怒っていましたが、最近は何も言いません。子どもと顔を合わせることも少なくなりました」と言われるときは、「もう少しお父さんが子どもと過ごす時間が持てるといいですね」と応じます。「うちは母子家庭みたいなもので」とおっしゃることもあります。本当に父親不在の母子家庭ならば話は別ですが、子どもが不登校になったときは、大げさに言えば、家族の危機でもあるわけですから、「お父さんの出番ですよ」と声をかけたくなります。



エッセイストの宮田珠己氏が日本経済新聞のプロムナードという欄に「息子との旅」の話を書いておられます。小学生の息子が「学校でいっぱいいっぱいになっていた」ときに、誘って一緒に北海道を旅行されたそうです。「北海道ではカヌーに乗ったり、海辺で石を投げたり、ロープウェイで山に登ったり、とくに何をしたというわけでもない。・・・(中略)・・・本人も楽しんでいたのでどうなのかよくわからなかったけれど、帰ってからしばらくして、妻に『宝物のような時間だった』と話したらしい」(平成27年7月23日夕刊)。息子さんが中学生になった後はバスケットボールの部活が忙しくて、誘ってもまったく乗ってこないらしく、エッセイは「今思えば、あのときの北海道旅行は、父にとってこそ『宝物のような時間だった』のかもしれない」と結ばれていました。「父と子とふたりで北海道旅行」までは無理かもしれませんが、せっかくお父さんになったのですから、子どもと一緒に時間をもっと楽しんでみられてはどうでしょう。

「ほどよい親」になる

どんな親が百点満点の親なのか、一概には言えないと思います。そもそも子どもにとって完璧な親になるなどと言うことは不可能であるにちがひありません。英国の著名な児童精神科医であるウィニコット (Winnicott, D.W. 1896~1971) は、乳幼児の基本的な欲求に対応した行動がとれる母親を「ほどよい母親」と呼んでいます。「ほどよい (good enough)」とは、子どもの基本的な欲求に応じることができるが、完璧にはできないし、またその必要もないという意味で使われています。

親は「まあまあ」とか「ほどほど」でよいのです。関西弁で言うと「ぼちぼちですな」というところでしょうか。子どもとの会話について言えば、しゃべりすぎない、だまりすぎない父親・母親ということになるのでしょうか。子どもの能力が高まってくれば、親からの働きかけを減らして、子どもの自主性を尊重する「ほどよい」関係を築き上げていくことも大切でしょう。これも「ほどほど」「まあまあ」「ぼちぼち」の「ほどよい」親となる条件かもしれませんね。

20周年事業（やまびこフェスタ）

当所は今年で開所から20周年を迎えます。開設当時の様子やこれまでの軌跡、色々な思い出を振り返りつつ、記念式典や記念コンサート等を実施します。多くの方々に来所いただき、盛大に行えればと願っていますので、ご参加をお待ちしています。

※参加無料

実施日 10月25日（日）11時00分～15時00分

- 主な内容
- 記念式典
 - 記念コンサート
「ここに座ってごらん ～やまびこの郷～」
フォークシンガー 高石ともや
 - ふれあい体験
やまびこ鍋、焼き芋、お茶席 他



地域やまびこ教室

朝来市が遠く、但馬やまびこの郷がどんな活動をしているところか知らない方に向けて、当所のスタッフが出向き、活動と一緒にいきます。

当所のホームページで開催要項・申込書等をダウンロードできますので、希望の方はお申し込み下さい。私たちスタッフと一緒に、新しい発見や出会いを体験してみませんか。



回	実施日	地域	会場
3	9月4日（金）	播磨東	加古川市立漕艇センター
4	9月24日（木）	阪神	県立一庫公園
5	10月28日（水）～29日（木）	淡路	国立淡路青少年交流の家
6	11月6日（金）	但馬・丹波	県立但馬牧場公園

※1、2回（播磨西、神戸）は終了しました。

参加者の声

- ・ 日頃あんまり外に出なかったけど、久しぶりに外に出て人と話せた事が良かった。
- ・ 最初は知らない人ばかりだったけど、遊んだりして仲良くなれた。

保護者の声

- ・ やまびこの郷で過ごす子どもの表情を近くで見ることができ、とても納得したり、安心したり「こんなふうになんかエネルギーを貯めているんだなあ」と嬉しく思いました。
- ・ 笑ったり、ため息ついたりするなど、自分をありのままに出せる濃く楽しい時間を作っていただいたことに感謝しています。

指導者の声

- ・ 親子の関係や学校では気づかなかった一面を知ることができ、今後この経験を生かしていきたいと思います。より多くの教師に参加してもらえたらいいなと思いました。

